高松の城ハ加陽郡にして龍王山の南にあり蛙が鼻ハ城の東に在きびの中山つゞき山ハ東南に在る村ハ城の西に当る平山ハ龍王山の正下に在り

喉を窮せしむべし。これらの事を快からしむ。自方の揣兵桂が退去を追討せんと噪ぐを制止し。帰る軍ハ追べからずと。彼語識もあるものを窮に統く殿ことなられど。まづ城中の政事をなし。猶も諸軍を進ませく。高松の城を攻陥さんと。龍王山に攀躋りて。四邊の地理を仔細に量視せられたり

秀吉借霖雨水攻高松城属三家援兵

春の甲子に雨ふる時ハ。赤地千里。夏の甲子に雨ふる時ハ。舟に乗て市に入り。秋の甲子に雨ふる時ハ禾頭耳を生ず。冬の甲子に雨ふる時ハ牛羊凍死すと謂り。（俚諺の言）秀吉雖も是を識て。這地に事を量らんとに。然るに筑前守。龍王山に攀躋り。直下に敵城を瞰視しるに。其も高松の一城ハ平地の小堆に丘にありて。深田池塘四面を繞り。面門の道ハ僅かに單騎を通さ故ミ。最も窄き城塞なり。秀吉熟くこれを視く。這城郭に推進せて。

尋常の軍をなさバ。兵士の疲労を増のミにして。攻陥すこと容易かるまじ。地の理を察して謀りけるに。水攻にせバ利あるべきと。諸勢に陣を。龍王山の南平山。鼓山。右衛中山。其外三ケ村迄手操つかせ。備本陣をバ。蛙が鼻へ撤し。将居されどかくて板倉が岸下に降参しける。雑人兵卒一千余人に近郷村の百姓輩。一千余人を駆集め。晝夜を分たず山野を穿らせて。其員およそ数百万余の砂嚢を領に辨つさせけり。是ハ工匠の棟梁。辻浦大八。大門林右衛門といふものゝ功なり。羽柴家の扶持人なれバ。秀吉渠儕を招寄。這高松城攻んとせるに水をもつて陥さんとに。既先達てその注意なし。間数をもよく歩算おきけり。汝等両人此堤を築つきその條々ハ陽土をうち。地形の高下を案量しと令せ。城両人領受なれ。この堅固にハ湯坂甚内を當副らる。頃ハ五月の初にして昨日甲子の日なりけるが。雨車軸を灌ぎたる由ゑ。定